

耳鼻咽喉・頭頸部外科

■ スタッフ

科長	竹内 万彦
副科長	小林 正佳
医師	常 勤 13 名
	非常勤 0 名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

特色

診療科の特色・診療対象疾患

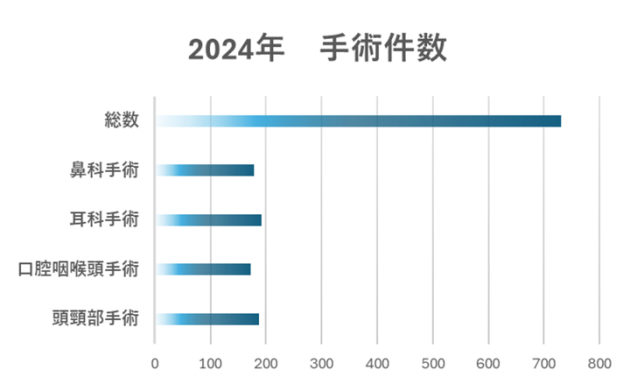
三重県内唯一の大学病院・特定機能病院として、耳鼻咽喉科および頭頸部外科領域全般の疾患に対応している。特に(1)頭頸部腫瘍、(2)各種中耳炎と先天性難聴、(3)鼻副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍・前頭蓋底腫瘍、(4)嗅覚障害、味覚障害、(5)原発性線毛運動不全症に重点を置いています。また、国立病院機構三重病院と連携して小児の人工内耳診療も行っています。各疾患に対して専門外来を設置し、それぞれ専門性の高い診療をしています。三重大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム基幹施設、日本耳科学会耳科手術認可研修施設、日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本頭頸部がん専門医制度指定研修施設、日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設(咽喉系)です。

■ 診療体制と特徴、実績

診療実績、診療体制

2024年度の延べ外来患者数は14,263名で、そのうち初診患者数は1,156名でした。新規入院患者数は648名でした。総手術件数は731件で、耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の手術に広く対応しています。主な手術領域は、耳科手術、鼻科手術、口腔・咽頭・喉頭腫瘍手術、唾液腺腫瘍手術、甲状腺手術です。その他に、院内の他診療科からの依頼による気管切開術やリンパ節生検も多数行っています。また、夜間および休日でも、深頸部膿瘍、急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、鼻出血、異物などの耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の緊急疾患に対応しています。

<手術件数>



<頭頸部癌>

原発部位、組織型、進行度に応じて、手術、放射線(単独)治療、化学放射線治療、動注放射線治療から最適な治療法を選択しています。放射線治療では、放射線科と連携して治療を行います。治療に伴う急性期有害事象に対しては、看護師が積極的にケアを行っています。手術では、形成外科の協力を得て各種遊離組織移植を用いた再建手術を行っています。また、食道、縦隔、頭蓋内など他領域に伸展する腫瘍に対しては、消化管外科、呼吸器外科、脳神経外科等と協働して手術をしています。

<鼻副鼻腔疾患>

好酸球性鼻副鼻腔炎、鼻副鼻腔良性・悪性腫瘍、嗅神経芽細胞などの前頭蓋底腫瘍に幅広く対応しています。安全な手術のために、ナビゲーションシステムを活用しています。特に指定難病である好酸球性副鼻腔炎では、手術療法と保存的療法を組み合わせることで良好な治療効果を得ています。腫瘍性疾患も可能な限り内視鏡手術で施行し、鼻内内視鏡下での前頭蓋底切除・再建術や眼窩、翼口蓋窩、側頭下窩、副咽頭間隙の切除術も行っています。他科と合同で行う経鼻的内視鏡手術も多く、脳神経外科とは下垂体腫瘍・中頭蓋底腫瘍摘出手術、歯科口腔外科とは歯牙を温存する歯根嚢胞手術、眼科とは内視鏡下経鼻的涙嚢鼻腔吻合術を協働で行っています。また、希少疾患である線毛機能不全症候群の精査・診断を行っています。

<耳科疾患>

慢性中耳炎および中耳真珠腫に対する鼓室形成術、耳硬化症に対するアブミ骨手術、両側高度感音難聴に対する人工内耳植込術、末梢性顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術、側頭骨腫瘍に対する手術等を行っています。鼓室形成術では、経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)を取り入れています。

＜専門外来＞

①難聴外来

突発性難聴や高度感音難聴などの診療を行っています。突発性難聴に対しては、ステロイド鼓室内投与を行っています。また、臨床遺伝専門医が難聴の遺伝子診療を担当しています。

②補聴器外来

適切な補聴器装用のために、補聴器適合検査を行っています。

③小児難聴外来

難聴や言語発達の遅れを訴える乳幼児、障がいのある児童にして各種検査により難聴の早期発見に努めるとともに、障がいに応じた施設や医療機関への紹介、両親へのアドバイス、その後の聴覚管理を行っています。そのために小児科の発達外来とも連携してします。

④（聴性脳幹反応検査）外来

主に新生児スクリーニングで難聴を疑われた児などに対して、ABRでの精査を施行している。

⑤めまい外来

温度刺激検査、前庭誘発筋電位検査（VEMP）、重心動揺検査、ビデオヘッドインパルス検査などを行い、めまい全般の診療を行っています。難治性メニエール病に対しては、入院での内リンパ嚢開放術を行っています。

⑥嗅覚・味覚外来

全国でも有数の専門外来として診療しています。三重県のみならず、東海地区の他、東は東北地区から西は九州地区まで、全国から多くの患者が紹介または希望により受診しています。そしてそれらのデータに基づいて新しい治療法の工夫、開発をしています。保存的治療のほかに、鼻副鼻腔炎や鼻腔形態が原因の例に対しては手術治療も施行しています。改善率は、鼻副鼻腔炎による嗅覚障害で86%、感冒後嗅覚障害で92%と良好です。

⑦アレルギー外来

アレルギー性鼻炎患者の抗原検索や免疫療法を行っています。精査によりアレルゲンの同定や、スギ花粉症や通年性アレルギーで中等症以上の場合には積極的に舌下免疫療法を施行しています。

⑧嚥下外来

言語聴覚士とともに嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査で機能評価および診断を行っています。また、重症誤嚥に対しては誤嚥防止手術を行っています。

⑨音声外来

発声障害や嚄声の診断と治療を行っています。音声リハビリテーションや入院による音声改善手術も行っています。

⑩甲状腺・エコー外来

主に甲状腺腫瘍を診療し、必要に応じて即エコーガイド下穿刺吸引細胞診が可能なシステムを設けてあります。

＜医療設備＞

MRI、CT、PET-CT、核医学、超音波、各種内視鏡、手術用顕微鏡、マイクロデブリッター、コブレーター、ナビゲーションシステム、電子スコープ（NBIシステムあり）、聴力検査機器、インピーダンス検査機器、聴性脳幹反応検査機器、耳音響放射検査機器、耳管検査機器、補聴器適合検査用機器、各種平衡機能検査機器、顔面神経検査機器、基準嗅力検査器、味覚検査機器、鼻腔通気度検査機器、アコースティックライノメーター、音響分析装置などを設置しています。検査機器は、病院の電子カルテシステムに接続しており、検査結果をカルテ画面で迅速に参照、記録できます。

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/jibiinkou/>